

平成21年9月1日

第66号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rirya.maff.go.jp/kanto/>



家の串方面から望む武尊山（群馬県片品村）  
（提供者：片品村むらづくり観光課）

## 美しい森林づくり

森林保護員「グリーンサポートスタッフ」による保護巡視活動

計画部 国有林野管理課

## 私の視点

大沼の両生類、その現状と保護

塩原野生動物研究会代表

大沼自然再生推進協議会会員 君島 章男





登山ルートを案内するスタッフ

国有林野内には豊かな自然があり、レクリエーションの森等では歩道や案内板等が整備され、多くの方に利用されています。しかしながら地域によっては、不法投棄や山野草等の盗採などの問題が生じるケースもあります。

そこで国有林では、平成18年度から、自然保護と登山者のマナー向上

## 森林保護員「グリーンサポートスタッフ」による保護巡視活動

計画部 国有林野管理課



歩道について説明をするスタッフ

等の普及・啓発活動などを行う取り組みの一環として、国有林野内の巡視等を行う「グリーンサポートスタッフ」（以下GSSという。）制度を導入しています。

現在、GSSが配置されているのは、高尾山（東京都）、尾瀬（福島県）、富士山（静岡県）谷川岳（群馬県）、小笠原（東京都）など日本を代表する豊かな自然がある地域で、今年度は管内9カ所59名のGSSが

従事しています。GSSの活動は、雪のない季節が中心ですが、高尾山や小笠原のように年間を通して活動しているところもあります。

活動内容は、登山者への自然保護啓発、歩道以外への立ち入り注意、コース案内、植物等の解説、危険箇所の喚起・表示、危険木等の処理など多岐に亘っています。

また、経歴は登山のベテランや森林インストラクターなど、山や自然についての知識が豊富で、毎週活動しているのが、タイムリーな情報を得られます。登山者の方へ積極的に声をおかけしますので、皆さんも気軽に話しかけてください。

ここで、高尾山を例に山の利用ルールをご紹介します。

ルールを守って、後世の子どもたち



小学生を助けるスタッフ(高尾山)

にすばらしい自然を引き継ぎましょう。

### 【利用ルール】

- 一 計画や準備は万全にする。  
（命や身体の安全のためには登山経験者に相談したり、目的地やルート情報を必ず確認し無理な行動は避けましょう。）
- 二 ゴミは必ず持ち帰る。  
（ゴミのポイ捨ては自然環境や景観、野生生物に悪影響を与えます。ゴミになるものは最初から持っていないよう工夫しましょう。）
- 三 登山道を外れて歩かない。  
（道に迷ったり植生を痛めることになります。また転落する恐れもあります。）
- 四 動植物は大切にします。  
（多様な野生生物は自然を形作る重要な構成員です。）
- 五 火の始末をきちんとする。  
（たばこの投げ捨てなど山火事の原因となることはやめましょう。）
- 六 トイレなどの公共施設をきれいに使う。
- 七 ペットにはリードをつける。
- 八 マウンテンバイク等車両を乗り入れない。
- 九 生き物にえさをやらない。  
（えさを与えると野生生物に影響を及ぼす恐れがあります。）





植物の利用方法を説明する職員

最初に、赤谷センターから赤谷プロジェクトを紹介し、赤谷プロジェクト地域協議会からフィールドマナーの説明を行いました。その後、先生の引率のもと児童を6班に分け、①



レッツ！サマースクールでの森林環境教育

地元新治小学校では小学5年生を対象に、高原千葉村林間キャンプで「レッツ！サマースクール（キャンプ活動）」を実施することになり、赤谷プロジェクト地域協議会、赤谷センターが新治小学校と連携して、7月22日（水）に森林環境教育を実施しました。

森林のしくみ、②森林の利用、③分解者としてのキノコの働き、④森に生きる動物、⑤アリジゴクの5テーマの箇所を各班が順番に巡っていきましました。

各テーマの解説箇所では、赤谷センターや赤谷プロジェクト地域協議会がそれぞれ担当したテーマについて、絵や道具を用いてわかりやすく解説しました。最後には、歩きながら児童たちが拾った木の実を使い何の実かを当てるクイズをしました。

当日は、日食が観測され、プログラムの合間に観察メガネを使って、天体ショーも楽しむことが出来ました。



観察メガネで日食を体験

願っていた旨要望があり、これからは地域の教育関係者との連携した環境教育を推進していきます。

### 「ムタコの日」住民参加の森づくり

8月2日（日）、赤谷プロジェクト地域協議会が主催する「ムタコの日」が開催されました。前号でも紹介しましたが、「ムタコの日」とは、「赤谷の森」の無多子（ムタコ）沢にちなんだもので、地域住民に自らが住んでいる周囲の森林の大切さや水源かん養機能等について、様々な普及、啓発活動に取り組んでおり、今年で3年目になります。当日は、地元小学生が中心に多数の親子連れが参加しました。

今回は、ムタコ沢のカラマツ林で混み合った木の伐倒作業を行いました。



受け口に狙いを定め伐倒

作業の目的は、木を間引いて光を林内に行き渡らせることにより、植生を豊かにし、森林の水源かん養機能を高め、様々な動植物が生きていくこと。このとき、単に伐ってもらうだけではなく、枝払いや長さ2mの丸太切りに挑戦してもらいました。普段は刃物を使ったことがない子供が多かったようで、木が倒れるたびに大きな歓声が上がりました。休憩時間には、赤谷プロジェクト地域協議会から、林内にあるアナグマなどの穴を教材にした森林に棲む動物の生態についても説明しました。今後も「ムタコの日」の活動などを通じて、次の世代を担う子供たちに身の回りの森林について、関心を持ってもらうよう様々な取り組みを進めていきます。



丸太切りに挑戦



## 第二回 国有林野事業見学会を開催

計画部 指導普及課



尾瀬岩鞍スキー場のゆり園



奥利根のブナ太郎

8月7日(金) 関東森林管理局指導普及課は、今年度2回目となる国有林野事業見学会を開催しました。今回の国有林野事業見学会は、国有林をレクリエーションの森として活用している尾瀬岩鞍スキー場のゆり園、緑豊かなブナ林の奥利根水源の森、森の巨人たち百選に選定されている奥利根のブナ太郎、日本最大級のロックフィル式ダムである奈良俣ダムなどの見学を行いました。

この見学会のメインである「奥利根水源の森」自然観察会は、「樹木や草花を詳しく教えてもらいながら散策したい」「楽しく散策したい」「ゆつくりのんびり散策したい」など、参加者の要望に合わせて4つのグループに分かれ、群馬県林業技術士の協力を得て実施しました。

「奥利根水源の森」は、利根沼田森林管理署が管理する、群馬県みなかみ町藤原に所在する標高約1,400mの国有林で、世界自然遺産である白神山地のブナ林に勝るとも劣らない素晴らしいブナ林であり、首都圏の水瓶である利根川の最上流部に位置しています。このブナ林を利用し、水源となる森林を適切に管理していくことの重要性、「国民の森林」として大切に管理されている国有林に対する認識などを深めて頂くとともに、自然とふれあうことの

楽しさを実感して頂くため実施しました。

参加者の皆様には、倒れた木から新たな樹木が育つ「倒木更新」の説明や、雨水を蓄える「森林土壌」の説明など、森林・林業の専門的な内容を、それぞれの講師の方が楽しく解説したので、「森林の大切さを改めて実感した。」「講師の方の説明が分かりやすく、楽しい観察会だった。」と大好評でした。



日本最大級ロックフィル式の奈良俣ダム



第2回国有林野事業見学会参加者の皆さん



大好評だった「奥利根水源の森」自然観察会





アカギの林

小笠原諸島の国有林には、貴重な野生動植物が生息・生育しています。が、過去に移入等された外来種がその分布域を拡大し、小笠原固有の生態系に影響を及ぼしています。植物種では、特に、アカギやモクマオウ等がその分布域を拡大しつつあります。国有林におけるこれら外来植物の駆除は、平成14年度から母島においてアカギの巻き枯らし・伐採や稚幼樹の抜き取りに着手、平成19年度からは、固有森林生態系の修復を目的として本格的に外来植物の駆除に取り組んでいるところです。



小笠原国有林における固有生態系の修復について  
片道25時間半の船旅をかけてのボランティア活動

小笠原総合事務所

こうした、外来植物の駆除に当たっては、これまで多数の地域の方やボランティアの方のご協力もいただいているところです。



駆除したモクマオウを玉切りする学生

今回は、ボランティアによる外来植物の駆除、特に、「東京農業大学ボランティア部」の活動について紹介します。

東京農業大学ボランティア部は、「小笠原固有の植生に影響を与えているモクマオウ等の外来植物の駆除等を行い、小笠原の自然の保全、環境教育や地域の方とのつながり」を

目的に活動を続けています。このボランティア活動は、平成17年度に始められ、19年度からは毎年8月と2月の2回実施しています。これまで延べ420名強の学生さんがモクマオウの駆除など参加しており、10日近く小笠原に滞在して、活動を行っている学生さんもあります。また、これらの活動には、小笠原村、NPO小笠原野生生物研究会、母島観光協会の協力もいただいています。

こうした駆除活動では、父島の焼場海岸（振分山国有林）などのモクマオウの伐採駆除、駆除したモクマオウを利用した炭作り、駆除後の固有種の生育状況を把握するための植生プロットの調査なども実施しています。



東京農業大学ボランティア部の皆さんとスタッフ

平成20年度の活動では、伐採したモクマオウを利用して焼場海岸に至る階段の修理も行い、利用者から大好評を得ています。また、平成20年からは、母島（長浜の国有林）のアカギの稚幼樹の抜き取りも行っているほか、今年は、母島の地域イベントの準備の手伝いなど、地域の方との交流にも、これまで以上に積極的に取り組んでいます。

こうした、5年間にも及ぶ地道な活動により、モクマオウが純林化していた焼場海岸の国有林も、徐々に固有の植物種が見られるようになってきました。

（生態系管理指導官 原田 正明）

## 新任幹部を

紹介します。

9月1日付け（一）は前任

## 関東森林管理局課長

▽森林整備部治山課長

井口 英道

（林野庁森林整備部研究・保全課  
課長補佐（森林環境保全担当））

## 森林管理署長

▽茨城森林管理署長

関下 俊則

（東北森林管理局山形森林管理署長）



## 私の視点

## 大沼の両生類、その現状と保護

塩原野生動物研究会代表  
大沼自然再生推進協議会会員 君島 章男

栃木県北部、那須塩原市の西部に、大沼公園があります。この周辺は、約30万年前の噴火によってできた沼や湿地を中心に、緑豊かな森林によって形成されている地域です。早春のミズバショウの開花から、初夏のわずみずしい若葉の香、そして秋の色とりどりの紅葉と、四季折々すばらしい景色を私たちに楽しませてくれます。

そんなすばらしい森林の中に、彼らは生息しています。彼らとは、モリアオガエルやクロサンショウウオ



大沼公園



モリアオガエルの産卵

などの両生類です。両生類とは、子供の時期を水中で過ごし、親になるとその周辺の森林の中で生活する小さな生き物です。現在、両生類は、地球的規模での保護が叫ばれている動物で、栃木県でも、在来種16種類のうち13種類が貴重な種とされています。水辺と森林で生きている彼らは、この二つの環境のどちらか一つでも欠けてしまうと、生きていけなくなってしまう。非常に環境変化に敏感な生き物たちです。彼らが生息

している地域、それは、すばらしい自然環境が残っている地域といえるのです。大沼周辺では、県在来種の50種以上の10種類の両生類が生息しています。

その一つが、モリアオガエルです。全長が8センチにもなる全身緑色の大きなカエルです。彼らの最大の特徴は、なんとと言っても、樹上での産卵です。大沼では、6月中旬から7月中旬にかけて、沼周辺の樹上にソフトボール大の卵塊を200個近く見ることが出来ます。雨が降っている日には、1匹の雌に数匹の雄がまとわりついて産卵しているところが目撃できます。

もう一つ、大沼を代表する両生類に、クロサンショウウオがいます。彼らは、4月上旬から5月上旬にかけて、沼に集まり水中の枯木などに、あけび状のような卵囊を2個産みつけます。彼らも集団で産卵すること



クロサンショウウオの卵囊

から、一カ所に200個以上の卵囊が見られる地点が大沼では、三・四カ所あります。

そんな大沼を代表する彼らにも、近年危機がせまってきました。冬の降雪量と梅雨期の降雨量の減少などによる水位の急変、移入動物による卵の食害などによって、生息数の減少が見られるようになってしまいました。そこで、私たちは、平成16年に塩那森林管理署や市が中心になって設立された大沼周辺自然再生推進協議会を中心にして、両生類の保護活動に取り組んでいます。また、両生類も含めた大沼周辺全体の自然再生という目標に基づき、大沼周辺から採取したドングリからの苗木の植樹による森林自体の再生にも力を入れています。

「ココツ、ココツ、ココツ」というモリアオガエルの声が、いつでも大沼の森林に響き渡ることを願って。

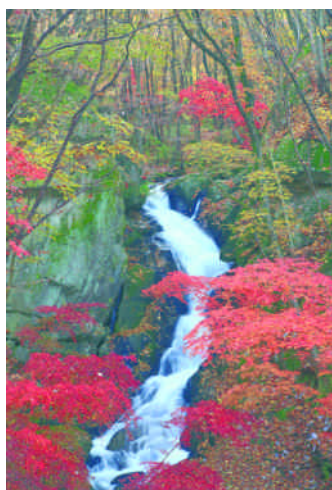


大沼自然再生推進協議会の皆さん

# 森林官からのあたり

ひがしだて

棚倉署森林管理署 東館森林事務所 森林官 中原 加奈子



秋の滝川溪谷



不法投棄の回収

私の勤務する東館森林事務所は、福島県南部の矢祭町に位置し、2,222 haのスギ・ヒノキ人工林を中心とした国有林を管理しています。

## 矢祭町の概要

矢祭町は、人口約7千人の小さな町ですが、町の面積の約80%を占めている森林が作り出す四季折々の自然と久慈川の清流がとても美しい町です。

また、ボランティア活動が盛んで、すべての本を寄贈されたもので運営している「もったいない図書館」や自立した町を目指し「合併しない宣言」をした町としても有名です。

## 東館森林事務所管内の概要

当管内の国有林には、福島の遊歩道50選の上位に選ばれた、全長3kmの散策路内に大小48もの滝が織りなす「滝川溪谷」があり、年間を通して多くの方が訪れています。

今年5月8日に、下関河内小学生による「滝川探検隊」が出動し、ゴミ拾いや手作りの看板の設置・補修を行いました。私はパトロールで力作の看板を見かけるたびに心が和みます。

その一方で、当管内の数力所で、心ない一部の人による不法投棄が繰り返されています。このため、昨年、町・地元ボランティアの方々と協力しながら不法投棄の回収を行いました。

現在は森林パトロールを行っています。私達だけではなく、山に入るすべての方が自然を大切に、守ろうとする意識を持つことが必要だと感じます。みんなで協力することで、後世に豊かな森林を残していくことができるのだと思います。

## 日常業務について

当森林事務所では、人工林が約7割を占め、収穫調査や森林整備を中心に事業を行っています。職員が隣接事務所の業務を担当しているため、業務を進めるにあたっては、地域の方々の協力が不可欠となっています。

その日頃の感謝を込めて、昨年、折谷国有林で地元3町1村の町村長、林業関係者、一般の方々、地元小学生など総勢230名の参加のもと、平成20年度植樹祭が行われました。スギやヒノキを植樹し、森林教室を行うことで、未来を担う子ども達に美しい森林のあり方を考えてもらう良いきっかけになればと考えています。



平成20年度植樹祭

## これからの目標

当管内は、国有林と民有地の田んぼなどが入り組んでおり、共用林野の契約件数も多いなど、地域住民との関わり合いがとても重要となっています。先輩方から引き継いだ山間地域との繋がりをこれからも大切に、信頼されるよう頑張っていきたいと考えています。

また、国有林を全く知らない方々にとっても、開かれた国有林として、もっと様々な活動に参加しながら国有林をPRしていこうと思っています。

私は森林官に着任して2年目になりますが、日々問題にぶつかり、まだわからないこともあります。良い森林を造っていくために、目指すべき方向をよく考えながら、周りのみなさんと共に精進していきたいと思っています。



植樹祭実施後の森林教室



# 管内の百名山 「武尊山」



「武尊中岳初秋」今残したい片品の風景  
片品村商工会長賞受賞・星野錦作



武尊牧場三合平のレンゲツツジ

武尊山山麓は、そのほとんどが国有林となっており、北麓は武尊自然休養林として約1,400haのブナ、シラカンバなどの広葉樹林が優れた自然景観を呈し、西麓及び東麓にはキャンプ場やスキー場が数多く設けられているなど、四季を通じて地元住民はもとより首都圏からの利用者が訪れています。

また、武尊山の自然が育んだ湧き水は、「平成の名水百選」として認定されるなど生活にも欠かせないものとなっています。

利根沼田森林管理署は、今後とも、こうしたすばらしい自然を後世まで守りつつ、国民から支持され楽しんでいただけるよう、安全で快適なレクリエーションの場として利用の推進を図りたいと考えています。

(利根沼田森林管理署広報広聴連絡官)

武尊山(2,158㍎)は、群馬県北部の片品村、川場村及びみなかみ町に雄大な裾野を張り巡らせてそびえ立っており、北アルプスの穂高岳と区別するために、上州武尊山と呼ばれています。

武尊山は沖武尊(2,158㍎)を主峰とし、前武尊山(2,039㍎)、剣が峰(2,008㍎)など、2,000㍎級の峰が山頂部を形成するコニーデ形の火山です。

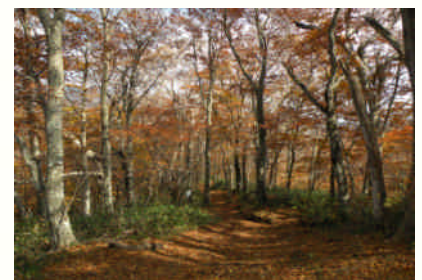
名前の由来は、日本武尊(やまとたけるのみこと)が東征のおり、山頂に登ったという伝説からきており、武尊山頂手前には日本武尊像が建てられています。

武尊山には3コースから登ることができ、山頂からは谷川連峰を始め、尾瀬の山々、日光白根山、ハケ岳、北アルプスなど360度の大パノラマが堪能できます。

特に、武尊牧場コースは、6月中旬から下旬にかけて群馬県の天然記念物に指定されるいる15,000株のレンゲツツジの大群落が咲き誇り、多くの登山者を楽しませてくれます。



日本武尊(やまとたけるのみこと)像



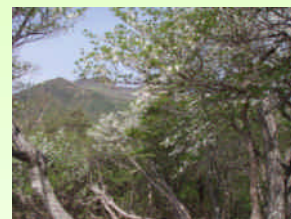
映画「眠る男」ロケ地の登山道

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 210-1159

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/enna/index.html  
塩那森林管理署で準備するもの  
鋸、ヘルメット、保護メガネ、(手袋、お茶、(保険加入シロヤシオ調査用具

準備用品 雨合羽、手袋、滑止め付  
き履き物、昼食、ポラン  
ティア保険加入、着替等

実施日 平成21年9月13日(日)  
実施場所 栃木県那須町大字大島  
字中大蔵山国有林  
募集定員 60名程度  
募集締切 平成21年9月10日(木)  
連絡先 塩那森林管理署  
担当 流域管理調整官  
電話番号 0287(28)3125



中大蔵山周辺のシロヤシオの群生地  
保護活動の参加者を募集します。

参加者募集